

# 日本語の「～て(くれ・ください)」に対応する 中国語の文の特徴 ——「請～」以外の文を中心に——

李 萍\*

キーワード: 依頼文, 命令文, 依頼, 命令, 祈使句

## 要 旨

日本語の「～て(くれ・ください)」は、「依頼文」であるが、「依頼」を表わすほかに「命令・指示」を表わすこともできる。また、「依頼」より「命令・指示」を表わすものが多いことが特徴的である。これは、日本語では動詞の命令形で表わす「命令文」はきつい命令の口調になるため、それを避けるために授受補助動詞の命令形で表わす「依頼文」で頼むという仕方です。「命令・指示」を表わすからである。

日本語の「依頼」を表わす「依頼文」に対して、中国語は「依頼」を表わす「命令文」で対応しているものがある。これは、中国語ではウチ関係の親しい間柄での依頼表現はよくぞんざいな表現が使われているため、「命令文」で「依頼」を表わすことができるという特徴が働いているからである。この点が日本語とずれている点である。また、日本語の「命令」を表わす「依頼文」に対して、中国語は「命令」を表わす「命令文」で対応するものがある。日本語は直接命令法を使わず、「依頼文」で「命令」を表わし、命令のきつさを柔らげるが、それに対応する中国語は直接命令法を使って動詞の前に副詞の「快」の修飾語をつけたり動詞の後に「吧」「嘛」「呀」「点兒」のような語気詞と副詞をつけたりして、命令語気を柔らげる。

日本語では「依頼文」で「命令」を表わすのに対して、中国語では、「命令文」で「依頼」を表わす点が、両語の大きな相違点である。

## 1. はじめに

日本語の「～て(くれ・ください)」の文に対応する中国語の文は主に「請～」の文であるが、そのほかにさまざまな文がある。例えば、日本語の「座ってください」に対して、中国語は「請坐。」の外に「坐吧。」、「你坐。」という文もある。別稿<sup>1</sup>では、中国語の「請～」文を中心に考察

\* LI Ping (リー ピン): 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学専攻。

<sup>1</sup> 李萍 (1995) 『日本語の「～てください」と「お～ください」に対応する中国語の「請～」の意味と構文の特徴——主語省略文を手掛かりに』、『広島大学教育学部紀要』第二部第44号。

し、日本語の「依頼」を表わす「～てください」文と「勧め」を表わす「～てください」文に対応する中国語の文は、それぞれ「依頼」を表わす動詞の「(我)請(你)～」の文と、「勧め」を表わす敬辞の「(您)請～」の文である、ということをはっきりとした。本稿では、「請～」以外の文を考察の対象にし、具体的に、日本語の文を「～て」「～てくれ」「～てください」の三種類に分け、それぞれは、どのような人間関係の間で、どのような構文で、意味的に「依頼」を表わすものか、あるいは「命令」を表わすものかを究明すると共に日本語のこの三種類の文に対応する中国語の文は、どのような人間関係の間で、どのような構文で、意味的に「依頼」を表わすものか、あるいは「命令」を表わすものか、そしてそれらは日本語とずれがあるかどうかを究明したい。

## 2. 本論文で扱う考察の資料

本稿では日本語の「～て(くれ・ください)」に対応する中国語の文を調査するために NHK テレビ中国語会話の講座に使われている中国語のドラマ《東京屋檐下》(一本)、「鈴木・高木の中国語漫遊記」(19編)とミニスキット(52回)、小説《結婚狂詩曲》(上下)の対訳資料と『王朔文集』<sup>2</sup>を使用する。その中の中国語の「請～」で対応する文を本稿の対象から外し、それ以外の文を全て考察対象にする。

## 3. 「依頼」と「命令」の先行研究

「依頼」については、森田(1985)が「依頼表現は自分のために相手が動くことを要求する表現である。依頼には①自分に対する恩恵賦与要求と、②対他者への恩恵賦与、さらに③私のためにあなたがやってください、と代行の要求などがある。」と述べている。また、柏崎(1991)は「～てください」は依頼を表わす場合は、話し手または他者に対する利益・恩恵賦与要求であり、聞き手には負担がかかってくる。聞き手の側がその行動をとるかどうかの選択性・随意性は多かれ少なかれある。話し手、及び他者に向かう方向性を持った動詞・補助動詞で表わされる。また、自己完結的な動作<sup>3</sup>ではあるが「私のため」「私の代わりに」を挿入することによって発話の意図を強調できる。」と指摘した。さらに、益岡・田窪(1989)は「依頼は人に動作をするよう

<sup>2</sup> NHK 放送出版協会発行の『中国語会話』12冊(1993.4～1994.3)のテキストに使われている『東京屋檐下』というドラマの脚本と「鈴木・高木の中国語漫遊記」及びミニスキットの対訳文は両語とも自然な会話文であると判断し、それを調査資料に使うことにした。その他に、小説中国語版《圍城》(1980、錢鐘書著、人民文学出版社)と日本語の訳本《結婚狂詩曲》(1988、荒井 健、中島長文、中島ミドリ訳、岩波文庫)及び『王朔文集』(3,4)(1992、王朔著、華芸出版社)。

<sup>3</sup> その動作が話し手へ向かう方向性を持たず聞き手側だけで行われる動作のことである。森田・松木(1989)に従って柏崎(1991)は自己完結的動作とした。

頼む場合のムードであり、相手の意志を尊重する点で命令より丁寧な表現である。依頼には、「直接依頼形式」と自分の実情を述べて相手に間接的に動作の依頼をする「間接依頼形式」とがある。その「直接依頼形式」には「動詞のテ形+「くれる」の命令形」が挙げられる。」と述べている。

「命令」については、馬場・廬(1992)は「命令表現は話し手が聞き手に対してある動作をすること、あるいはある状態にあることを命じる意を表わす表現である。」と述べている。柏崎(1991)は「命令」に「指示」の用法を加えて「「～てください」は「命令・指示」を表わす場合は上位者から下位者への丁寧な命令であり、ソトの関係で使われることが多い。自己完結的な動作で表わされる。聞き手に利益・恩恵賦与する行動の要求で聞き手の選択性・随意性がかなり小さいか、ほとんどない。すなわち、話し手によって指示された行動を聞き手は取らなければならないのである。話者が上位者で、聞き手が下位者の場合、一般にこの選択性は小さくなる。上下関係として捉えるものは、社会的な地位・役割の上下、年齢の上下、心理的な力関係の大小などが含まれる。また、公的機関における指示は、基本的に指示系統における上位者であると考えられる。」と述べている。

本稿では上述のような諸説を参考にして、「命令」を表わす表現は、相手に対する命令の意図を表わし、話し手が強い立場から相手の行動に制約を加えようとするものであるとする。その外に公的な機関の場合の「指示」を表わすものを加え「命令・指示」と捉える。「依頼」を表わす表現は、自分のためあるいは他者のために相手にある動作をするように頼み気持ちを表わし、弱い立場にある話し手が相手に頼み込んで自分の希求を満たそうとするものであるとする。

#### 4. 日本語の「～て(くれ・ください)」の構文と意味及び特徴

##### 4-1. 日本語の「～て(くれ・ください)」の構文と特徴

まず、調査資料の例文を見る必要がある。

- |   |             |
|---|-------------|
| ● 社長、社長、 <u>待ってください</u> 。                           | (社員 → 社長)   |
| ● あの、 <u>少しまけてください</u> 。                            | (客 → 店員)    |
| ● <u>はやく来てください</u> 。                                | (先輩 → 後輩)   |
| ● <u>パスポートを見せてください</u> 。                            | (税関の人 → 旅客) |
| ● <u>リボンをやって見せてください</u> 。                           | (先生 → 生徒)   |
| ● <u>ドライが必要なら、私どもにおっしゃってください</u> 。                  | (ホテルの人 → 客) |
| ● <u>話すからすわってくれ</u> 。                               | (友人 → 友人)   |
| ● お父さんとお母さんにおれは元気で、おまえは東京が<br>気に入ったと <u>書いてくれ</u> 。 | (兄 → 妹)     |
| ● <u>もう少し思いっきりやってくれ!</u>                            | (友人 → 友人)   |

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| ●あとで私のところへ <u>来て</u> くれ.          | (兄→妹)     |
| ●話ぐらい <u>して</u> くれよ.              | (恋人同士)    |
| ●たくさん料理を <u>用意</u> して <u>くれ</u> . | (夫→妻)     |
| ●さて、荷物の <u>整理</u> を <u>して</u> くれ. | (夫→妻)     |
| ●あら、ちょっと <u>待</u> って.             | (同級生→同級生) |
| ●早く <u>教</u> えて.                  | (友人→友人)   |
| ●パパ、早く <u>来</u> て.                | (子→父)     |
| ●頭少し <u>あ</u> げて.                 | (母→子)     |
| ● <u>気</u> を <u>つ</u> けてね.        | (母→子)     |
| ● <u>急</u> いで、 <u>急</u> いで.       | (母→子)     |
| ●もう向こうへ <u>行</u> ってよ.             | (恋人同士)    |

以上の「～て(くれ・ください)」は益岡・田窪(1989)のいう「直接依頼形式」で、「動詞のテ形+「くれる・くださる」の命令形」を使うものである。これらの文は「来い.」、「行け.」のような「動詞の命令文」の基本的に「命令」を表わす「命令文」と違って、「動詞のテ形+授受補助動詞(くれる・くださる)の命令形」になっているのが特徴である。「くれる・くださる」は基本的に動作のやりとりのある授受表現として使われるが、意味的に「私にある動作をする恩恵を与える」という恩恵関係のある表現である。このような文については、佐藤里美(1992)が「述語が《してくれ》や《してください》などの形でできている文は相手に動作の実現をたのむ・おねがいするというモーダルな意味を表現している。このようなモーダルな意味につつまれた文を依頼文とよんでおく。また、述語が《してくれ》《してください》の形でできている文はその対象的な内容に聞き手の動作をえがいている。そして、その動作を実現するように聞き手にたのむことを表わしている。動作の主体は聞き手、つまり二人称である。ふつう、この二人称の動作主体は主語として明示されることはない。」と述べている。本稿では佐藤里美の観点を参考にし、「～てくれ」「～てください」の外に「～て.」を「～てくれ・～てください」の省略形と考え、これらの文を「依頼文」と考えることにする。「くれ・ください」は「くれる・くださる」の命令形であっても、「命令文」と区別したのは相手に頼む動作動詞の命令形ではなく、授受補助動詞の「くれる・くださる」の命令形であって、その授受補助動詞に動作のやりとりがある表現であるからである。

#### 4-2. 日本語の「～て(くれ・ください)」の意味と特徴

まず、「～てください」の例文を会話の形で提出し、分析してみる。

例① A: 仕方ないね。ようするに今月はもうだめだ。(席を離れる)

B: 社長、社長、待ってください。(社員→社長)

② A: あの、少しまけてください。(客→店員)

- B: 3元まけましょう。27元です。
- ③ A: 社長、何とかしてください。 (社員 → 社長)  
B: 仕方ないね。ようするに今月はもうだめだ。
- ④ A: はやく来てください。 (先輩 → 後輩)  
B: はい。
- ⑤ A: パスポートを見せてください。 (税関の人 → 旅客)  
B: どうぞ。
- ⑥ A: リボンをやって見せてください。 (先生 → 生徒)  
B: 動作は合っているよ。
- ⑦ A: ドライが必要なら、私どもにおっしゃってください。 (ホテルの人 → 客)  
B: はい。分かりました。

「～て(くれ・ください)」が「依頼」を表わすか「命令・指示」を表わすかを区別するのに、話し手の要求する動作に対して聞き手に選択性があるかどうか、と自己完結的動作であるかどうかによって区別することができる。

例①②③は下位者から(社員、客)上位者への要求であって、聞き手の社長や店員に選択性があるため、「依頼」を表わす例と考える。例②は、営利企業の場合には客が上位者とみられるのが普通であるが、要求する動作に対して聞き手に選択性があるという点では「依頼」を表わすと考えられる。例⑤は「見せる」という動詞は話し手に向かう方向性を持った動詞であり、自己完結的動作ではないため、「依頼」を表わす例と考える。

例④⑥は上位者(先輩・税関の人・先生)から下位者への要求であって、話者が上位者であり、聞き手が下位者であるため、聞き手の選択性が小さいかほとんどないため、「命令」を表わす例と考える。例⑦は、営利企業の場合には下位者(ホテルの人)から上位者(客)への発話とみられるが、聞き手に選択性がないために「指示」と考える。

これらの「依頼文」は、動詞の命令文と比べると低姿勢で命令・指示の口調を和らげ、動作の遂行を頼むという仕方では求めている。動詞の命令文は、絶対的な命令、一方的、高圧的できつい要求の表現であるので、上述の例文の場面には不適當であると考えられるのが普通である。これらの文は主にソトの関係で使われ、いずれも自己完結的な動作で表わされている。

以上のように「～てください」は、授受補助動詞による「依頼文」で、実際の言語活動では「依頼」の他に、主にソトの関係における上位者から下位者への丁寧な「命令」(指示を含む)としても多く使われているのが特徴である。

次に「～てくれ。」の例文を分析してみる。

- ⑧ A: 一体何があったの。  
B: まあ、話すからすわってくれ。 (友人 → 友人)

- ⑨ A: その三つめはなんなの。  
B: お父さんとお母さんにおれは元気で、おまえは東京が  
気に入ったと書いてくれ. (兄→妹)
- ⑩ A: もう少し思いっきりやってくれ! (友人→友人)  
B: はい.
- ⑪ A: あとで私のところへ来てくれ. (兄→妹)  
B: はい.
- ⑫ A: 何がそんなに君を怒らせているの. 話ぐらいしてくれよ. (恋人同士)  
B: 私はあなたの何だと思っているの.
- ⑬ A: 小莉, あす課長さんが家で食事することになった.  
たくさん料理を用意してくれ. (夫→妻)  
B: いいわ. 課長さんはふだんはどんなものが好きなの.
- ⑭ A: さて, 荷物の整理をしてくれ. (夫→妻)  
B: はい.

柏崎(1992)によると「～てください。」に対応するウチの関係における, および聞き手に対する待遇度が下がる表現として「～てくれ。」がよく使われる。「～てくれ。」は「依頼」を表わす場合には話者・他者への方向性のある動詞, あるいは自己完結的な動詞では「私のために」を入れることができる。それに対して「命令・指示」を表わす場合には話者への恩恵賦与がなく, 自己完結的な動詞で表わされる。この観点からみると, 例⑧⑩⑫⑬はウチの関係の対等な関係における「命令」を表わす表現である。例⑨⑪はウチの関係の対下位者(妹)の関係における「命令」を表わす表現である。例⑭は「私のために」を入れることができるため, ウチの関係における「依頼」を表わす表現と考えられる。

以上のように「～てくれ。」の「依頼文」は, 実際の言語活動では「依頼」の他に, 待遇度の低い「命令・指示」としてもよく使われているのが特徴である。

最後に「～て。」の例文を分析してみる。

- ⑮ A: あら, ちょっと待って. (同級生→同級生)  
B: 早くしてよ.
- ⑯ A: 早く教えて. (友人→友人)  
B: はい, 分かった.
- ⑰ A: パパ, 早く来て. (子→父)  
B: はい.
- ⑱ A: こんなでいいかな.  
B: いいですよ. 頭を少しあげて. (母→子)

- ⑩ A: さようなら.  
 B: さようなら. 気をつけてね. (母 → 子)
- ⑪ A: 8号車……ああ, 先の方にあるわよ, 急いで, 急いで. (母 → 子)  
 B: はい.
- ⑫ A: ひどいことを言っていないよ. これは事実だよ.  
 B: うるさいわね. もう向こうへ行ってよ. (恋人同士)

柏崎(1992)によると、「～て。」の用例の中には「依頼」を表わすものの次に「命令・指示」を表わすものがよくあり、また「～て。」の使用主体は女性が多いと指摘されている。女性は「座れ。」のような「動詞命令文」をほとんど使用しないために、「～て。」の使用の必要性が高いためとされている。人間関係については、ウチの関係において、対上位者・対等関係で使用される「～て。」形式は「依頼」を表わす文が多い。対下位者の関係で使用される「～て。」は「命令・指示」を表わす文が増えてくる。その外に「～てね.」、「～てよ.」のように終助詞の付加が特徴的にみえる。「ね」の付加は、神尾(1990)によると、話し手の新情報を聞き手の縄張り内に投げ掛けて、共有しようとしているという心的態度を表わすためである。「よ」の付加は益岡(1991)によると、話し手の知識や意向が聞き手のそれと対立していることを示そうとするものである。例⑩⑪はウチの人間関係の対等関係における「依頼」を表わす表現であり、例⑫は対上位者(父)への「依頼」を表わす表現である。例⑬⑭⑮は、ウチの関係の対下位者(子)の関係で使用された「命令」を表わす文である。例⑯はウチの対等関係であるが、聞き手に選択性が小さいため「命令」と考えられる。

以上のように「～て。」は「依頼文」で、実際の言語活動ではウチ関係の対上位者あるいは対等関係において「依頼」を表わすし、また、対下位者における「命令」としてもよく使われている。さらに女性に多く使われることが特徴的である。

資料で収集した例文を表にまとめてみると表1のようになる。

表1 日本語の「～て(くれ・ください)」の使用状況

構文	意味	
	依頼	命令・指示
～てください	17	18
～てくれ	18	20
～て	19	23

表1をみると、「～て(くれ・ください)」は「依頼文」であるが、「依頼」を表わすほかに「命令・指示」を表わすこともできる。とくに「～てくれ」「～て」は「依頼」より「命令・指示」を表わすものが多いことが特徴的である。即ち、日本語では、動詞の命令形で表わす「命令文」

はきつい命令の口調になるため、それを避けるために授受補助動詞の命令形を用いる「依頼文」で頼むという仕方によって「命令・指示」を表わす方法があるということであり、日本語の「命令」を表わす文の形式にバラエティーがあるという特徴となっている。

## 5. 日本語の「～て(くれ・ください)」に対応する中国語の構文と意味及び特徴

### 5-1. 日本語の「～て(くれ・ください)」に対応する中国語の構文と特徴

- 例 ①' 社長, 社長, 待ってください. / 廠長, 廠長, 等一等.
- ②' あの, 少しまけてください. / 同志, 少算一点兒吧.
- ③' 社長, 何とかしてください. / 廠長, 再給我想想法兒吧.
- ④' 早く来てください. / 快來吧.
- ⑤' パスポートを見せてください. / 給我看看你們的護照.
- ⑥' リボンをやってみてください. / 你把綢子要給我看看.
- ⑦' ドライが必要なら, 私どもにおっしゃってください. / 要干洗, 就告訴我們.
- ⑧' 話すからすわってくれ. / 聽我說, 坐下.
- ⑨' お父さんとお母さんにおれは元気で, おまえは東京が気に入ったと書いてくれ. / 告訴爸媽你很好, 你很喜歡東京.
- ⑩' もう少し思いっきりやってくれ! / 再放開一点兒干.
- ⑪' あとで私のところへ来てくれ. / 待會兒, 來我這兒.
- ⑫' 話ぐらいしてくれよ. / 你倒是說話呀!
- ⑬' たくさん料理を用意してくれ. / 你多準備幾個菜.
- ⑭' さて, 荷物の撃理をしてくれ. / 你把旅行包整理一下.
- ⑮' あら, ちょっと待つて. / 哎, 等等.
- ⑯' 早く教えて. / 快告訴我嘛.
- ⑰' パパ, 早く来て. / 爸爸, 快來呀.
- ⑱' 頭少しあげて. / 把頭抬高一点兒.
- ⑲' 気をつけてね. / 路上小心点兒.
- ⑳' 急いで, 急いで. / 快走, 快走.
- ㉑' もう向こうへ行ってよ. / 一迈去吧.

まず、日本語の「依頼」を表わす文に対応する中国語の文を分析してみる。

例①'は、動詞を重ねてその間に数詞「一」を入れる。つまり「動詞＋一＋動詞」という構文になる。この「一」は「一下」と同じく「ちょっと」という意味である。例⑭'は、二人称の後に動詞と「一下」がつき、「你＋動詞＋一下」の構文で、例④'⑤'は「給我」という「私に恩恵

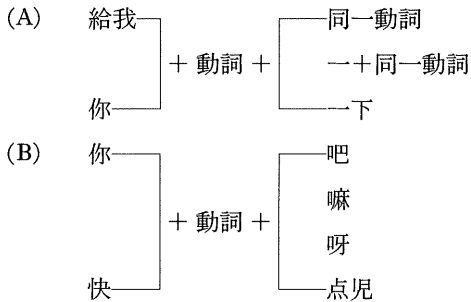


をくれる」という依頼を表わすことばの後に動詞の重ねた型が付き、「給我+動詞+同一動詞」の構文になる。例⑬'は動詞を重ねて、「動詞+同一動詞」の構文になる。例⑭'は、動詞の後に相談の口調を表わす語気詞の「吧」<sup>4</sup>が付き、「動詞+吧」の構文である。例⑯'⑰'は、動詞の前に催促を表わす副詞の「快」<sup>5</sup>が付き、動詞の後に当然の意味を表わす「嘛」<sup>6</sup>や催促を表わす「呀」<sup>7</sup>の語気詞が付き、「快+動詞+嘛/呀」の構文である。

次に、日本語の「命令」を表わす文に対応する中国語の文を分析してみる。

例⑦'⑧'⑨'⑩'⑪'は、「動詞」を中心とする構文で、例④'は「快+動詞+吧」の構文、例⑫'は「快+動詞」の構文、例⑮'は「動詞+吧」の構文、例⑱'は「你+動詞+呀」の構文、例⑥'⑬'は「你+動詞」の構文、例⑱'⑲'は動詞の後に程度を表わす「点儿」が付き、「動詞+点儿」の構文である。

以上の構文をまとめてみると次のような二種類の構文になる。



以上の構文は、袁(1992)によると「祈使句」という文であり「命令文」に相当する文であり、「命令・勧誘・要請・禁止・阻止」を表わす。

## 5-2. 日本語の「～て(くれ・ください)」に対応する中国語の意味と特徴

### 5-2-1. 日本語の「依頼」を表わす文に対応する中国語の意味と特徴

中国語の(A)の構文は「依頼」を表わす表現として広く用いられている。木村(1987)によると、「一下」ということばは動作が「短く一回」行われることを表わすいわゆる「動量」(動作の回数)表現であるが、それはしばしば「依頼」を表わす表現に活用され、相手に依頼する動作を短く少なめな形、いわば「軽減化」した形で提示することで、こちらの控えめな要求の姿勢を示

<sup>4</sup>「吧」は『現代漢語虚詞例釈』(1986, 北京大学中文班 1955, 1957 級語言班編)によると、「吧」は祈使句(命令文)に使われる場合に「依頼, 催促, 相談」の意味を表わす」と解釈している。

<sup>5</sup>「快」は『現代漢語虚詞例釈』(1986, 北京大学中文班 1955, 1957 級語言班編)によると、「快」は副詞であり、祈使句(命令文)に使われる場合に「催促」を表わす」と解釈している。

<sup>6</sup>「嘛」は『現代漢語虚詞例釈』(1986, 北京大学中文班 1955, 1957 級語言班編)によると、「嘛」は肯定文に使われる場合に肯定の口調を強め、話し手の自信と話したことの当然である意味を表わす」と解釈している。

<sup>7</sup>「呀」は『現代漢語虚詞例釈』(1986, 北京大学中文班 1955, 1957 級語言班編)によると、「啊」と同じであり、祈使句(命令文)に使われる場合に「催促, 勧誘, 警告, 注意」を表わす」と解釈している。

し、それによって、より円滑な依頼行為の遂行を促す働きを担っている。「一下」は依頼の表現の丁寧度の引き上げに有効に働いている。例⑭'は日本語の上位者への依頼を表わす。「依頼文」に対応して、中国語も依頼を表わす「命令文」で対応している。例⑮'は日本語の対等関係の間の依頼の表現に対して、中国語は「一」を省略したややぞんざいな依頼の表現で対応している。例⑯'は対等関係における「依頼」を表わし、また、日本語の「さて、荷物の整理をしてくれ。」のように要求する動作の動作手は二人称で省略しているが、中国語の場合は「你」の二人称を用い、「一下」で頼む気持ちを表わしている。例③'⑤'の中国語の文は「給我」ということばで「私にある動作行為を与える」という恩恵を要求する表現であり、「依頼」を表わしている。例②'は値引きをする場面なので「吧」という語気詞で、相談の口調で「依頼」を表わしている。

(B)の構文の中では、「動詞」だけの命令文は非常にきつい命令になるため、そのきつさを柔らげるため語気詞の「吧」がよく用いられる。「吧」は相談の意味もあれば、催促の意味もある。「動詞+吧」は「去!」(行け!)のような命令文より柔らかい表現である。これは動詞の前に「快(はやく)」という催促を表わす副詞を付けて「快+来」のように催促を表わすことによって幾分丁寧な方になり、これは普通の会話でも急いでいう時よく使われている。ところが直訳の日本語で対応する「早く来い。」というのは乱暴な方になり、中国語の「快来」は日本語では「早く来なさい」とか「早く来て」に相当するのである。「快来」をさらに丁寧にする場合、「快来呀。」「快告诉我嘛。」のように「呀」「嘛」の語気詞をつけて命令の語気を柔らげる。例⑬はウチの人間関係の対等関係における「依頼」を表わす文であり、例⑰はウチの関係の対上位者への「依頼」を表わす文である。例⑱'⑲'は日本語の「依頼」を表わす「依頼文」に対して、中国語は「命令文」で「依頼」を表わすように対応している。これは中国語では親しい間柄での依頼表現はぞんざいな表現を使い「命令文」で「依頼」を表わすことができるという特徴が働いていると考えられる。

以上の分析からみると、日本語は「～て(くれ・ください)」のように授受補助動詞を用いて「依頼」を表わすのに対して、中国語では主に動詞の後に副詞の「一下」や動詞の重ね型で「依頼」を表わしたり、動詞の前に「快」という副詞や動詞の後に「吧」「嘛」「呀」のような語気詞で依頼を表わしていることが明白になった。日本語の「依頼文」では動作手はほとんど省略されるが、中国語の場合は動作手を主語として明示することもある。日本語の「依頼文」による「依頼」を表わす表現に対して、中国語は「命令文」による「依頼」を表わす表現で対応しているものがあることが明らかになる。

### 5-2-2. 日本語の「命令」を表わす文に対応する中国語の意味と特徴

中国語の「動詞」を中心とする構文では、例⑧'のような「坐下。」は日本語の直訳は「坐れ。」であるが、中国語の場合は、ソト関係における対下位者への「命令」としては「坐れ。」の意味

になる。ウチ関係においては「坐りなさい。」に相当する。中国語の「命令文」の中のいちばんきつい言い方である。その命令口調を柔らげるために、例④'のような「快+動詞+吧」の構文、例⑤'のような「快+動詞」の構文、例⑥'のような「動詞+吧」の構文のように動詞の前に「快(はやく)」という修飾語を付けたり、動詞の後に「吧」を付けたりして幾分丁寧な言い方にする。「動詞」「快+動詞」「快+動詞+吧」の順に丁寧度が増加していく。構文の「你+動詞+(呀)」は相手にある動作をするように指示し、その動作手は聞き手であることを強調する言い方と考えられる。「呀」はその動作を催促する語気詞で命令の口調を柔らげる。構文の「動詞+点兒」の「点兒」はある動作の程度を指示する役割を果たしている。日本語の「ちょっと」の意味で丁寧な「命令・指示」を表わす。親しい間柄でよく使われている。

しかし、日本語は親しい間柄でも「坐れ。」のような直接命令法はほとんど使われず、「坐ってくれ。」のように「依頼文」で「命令」を表わす。これが両語の「命令」を表わす表現の大きな相違である。

以上の分析からみると、日本語は「～て(くれ・ください)」のように授受補助動詞を用いて「命令」を表わすことに対して、中国語は主に動詞の前に副詞の「快」や動詞の後に語気詞の「吧」「嘛」「呀」を用いて、「命令」を表わしていることが明白になった。その外に、日本語の「依頼文」は動作手はほとんど省略されるが、中国語のそれに対応する「命令文」は動作手を主語として明示することもある。日本語の「依頼文」による「命令」を表わす表現に対して、中国語は「命令文」で「命令」を表わすように対応していることが明らかになる。

資料で収集した中国語の例文を表にまとめてみると表2のようなになる。

表2 中国語の「命令文」の使用状況

構文		意味	
命令文		依頼	命令・指示
A型	動詞+一+動詞	23	0
	動詞+動詞	21	0
	你+動詞+一下	19	0
	給我+動詞重ね型	27	0
B型	動詞	0	11
	快+動詞+吧/嘛/呀	22	32
	你+動詞+呀	0	15
	動詞+点兒	2	13

表2からみると、中国語の(A)型「命令文」は主に「依頼」を表わすのに用いられているが、(B)型の「命令文」は主に「命令」を表わしている。中国語は動詞を重ねたり数詞や副詞を入れたりして「依頼」を表わす特徴がみられる。また、動詞の前に決まった副詞や動詞の後に決まっ

た語気詞を入れたりして「命令」を表わす特徴がある。とくに中国語は「命令文」で「依頼」を表わすことが特徴的にみえる。それは中国人の家庭や親友のような親しい間柄での依頼表現ではよくぞんざいな表現が用いられているからである。

## 6. ま と め

日本語の「～て(くれ・ください)」は授受補助動詞による「依頼文」になっているが「依頼」と「命令」を表わすことができる。日本語の「依頼」を表わす「依頼文」に対して、中国語は「依頼」を表わす「命令文」で対応しているものがある。これは中国語ではウチ関係の親しい間柄での依頼表現はよくぞんざいな表現が使われている特徴が働いているからである。この点が日本語とずれている点である。また、日本語の「命令」を表わす「依頼文」に対して、中国語は「命令」を表わす「命令文」で対応しているものがある。日本語は、直接命令法を使わず、「依頼文」で「命令」を表わし、命令のきつさを柔らげるが、これに対応する中国語は、直接命令法を使って動詞の前に副詞の「快」の修飾語をつけたり動詞の後に「吧」「嘛」「呀」「点兒」のような語気詞と副詞をつけたりして命令語気を柔らげる。

日本語では「依頼文」で「命令」を表わすのに対して、中国語では、「命令文」で「依頼」を表わす点が両語の大きな相違点である。

## 参 考 文 献

- 伊藤里美(1992) 「「依頼文」——してくれ、してください」、『ことばの科学5』, むぎ書房.
- 柏崎雅世(1991) 「『て)下さい』について——行動要求表現における機能分析」, 東京外国語大学日本語学科年報13.
- (1992) 『日本語における行為指示型表現の機能』, くろしお出版.
- 神尾昭雄(1990) 『情報のなわ張り理論——言語の機能的分析』, 大修館.
- 木村英樹(1987) 「依頼表現の日中対照」, 『日本語学』6-10, 明治書院.
- 中道真木男・土井真美(1995) 「日本語における依頼表現の扱い」, 『日本語学』10月号, 明治書院.
- 馬場俊臣・蘆春蓮(1992) 「日中依頼表現の比較対照」, 『北海道教育大学紀要』第1部A, 第43巻第1号.
- 益岡隆志・田窪行則(1989) 『基礎日本語文法』, くろしお出版.
- 益岡隆志(1991) 『モダリティの文法』, くろしお出版.
- 森田良行(1985) 『誤用文の分析と研究——日本語学への提言』, 明治書院.
- 袁毓林(1992) 『現代漢語祈使句研究』, 北京大学出版社.
- 林淑珠(1982) 「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較——丁寧度の視点から」, 『国語学研究』22号, 東北大学文学部国語研究室.